

## 「川内小学校の日暮長者伝説の朗読劇発表の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立川内小学校

### 2 学年・人数

3年生（計49人）

### 3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所  
令和2年10月～11月（本校教室・体育館）
- (2) 発表の日時・場所  
令和2年12月12日（川内小学校会議室）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

- (1) 名称  
日暮長者伝説（ひぐらしちょうじゃでんせつ）
- (2) 由来

日暮長者伝説は，室町時代末期に金剛弥五郎により創作された謡曲「鳥追舟」により全国に知られた伝説である。謡曲と地元に伝わる話とは，やや差違はあるが，長者が在京中に，長者の子（姉・弟）を長者の後妻が，10年間毎日小舟に乗せ水田の鳥を追わせたので，姉弟はその苦辛に耐えかね，川に身を投げたという悲劇である。里人は二人の屍を手厚く葬りそこにタブの木を植えた。その場所が現在の鳥追いの杜と言われる。

- (3) 構成等

日暮長者，お北（姉），花若（弟），お熊（継母），柳御前（実母），左近允（日暮長者の家来）の6人の台詞を，全員で分担しながらストーリーを展開していく。また，日暮長者伝説の場面ごとに，その様子を全員で歌う。構成としては，歌→台詞（グループ）→歌の繰り返しで，最後は全員で全ての場面を通して歌う。

### 5 保存会や地域との連携の具体

校区の伝説を多くの市民に知ってもらえるように，毎年，川内地区コミュニティーセンターの生涯学習フェア（毎年）や，薩摩川内市生涯学習フェスティバル（平成26年度）に出演している。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため，生涯学習フェアが実施されなかったため，校内のみで発表会を行った。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ ふるさと・コミュニケーション科の一貫として、毎年、第3学年が取り組んでいる。
- ・ 保護者や地域の方に見てもらうことはできなかったが、地域に古くから伝わる話が、次の世代に受け継がれるように、ふるさと・コミュニケーション科の学習の中で学び、発表する機会まで設定した。
- ・ グループ活動を多く設定し、多くの意見を出し合いながら、表現を工夫していけるようにした。互いに教え合いながら、意欲的に練習に取り組む子供たちの姿が多く見られた。
- ・ 登場人物の役をする児童の中で家に衣装がある児童は、持ってきてもよいことにした。発表に向けて更に意欲を高める児童が見られた。
- ・ 発表会で保護者を招待できなかったため、ビデオ撮影を行い、3学期の学級PTAで上映する予定である。

## 7 取組の様子（発表の様子）



## 8 参加児童・教員等の感想・意見

### ○ 児童

- ・ 日暮長者伝説のことが勉強できて、また一つかしこくなった。地域の歴史を学べて楽しかった。
- ・ いつも見ている塾山でこういうことがあったのかと思い、今まで以上に気になるようになった。

### ○ 教職員

- ・ 班ごとに表現を工夫して練習し、中にはセリフに合わせて動きまで表現したり、感情を込めたりする児童も見られるなど、子供たちの豊かな表現力に感心させられた。